

実態に合っていない 確認喚呼に関して議論！

現行列車ダイヤにおいて日常的に列車遅延が発生しています。原因のひとつとして、停車時分に対し基本動作、取り扱いに要する時間が不足している事が主な原因であることから名古屋地本は、申第4号「安全・安定輸送を阻害する駅停車時における確認喚呼についての申し入れ」を行い、11月24日に業務委員会が開催され会社と議論しました。

回答と主な議論については以下のとおりです。

《申し入れと回答》

1.列車の各駅停車時分を45秒以上とすること。

【回答】 朝の通勤時間等、多くのご利用が見込まれ乗降を要する駅については、停車時分に余裕を持たせる等、必要な時間は確保しておりそのような考えはない。尚、停車時分については引き続き検証を行っていく。

2.対策の上塗りを改め、停車時分に間に合う確認喚呼にすること。

【回答】 基本動作の変更については、事前に現場と打ち合わせを行い、必要により検証等、行っ
てから実施している。

3.不要な運情チェックは止めること。

【回答】 運転情報記録装置については、導入以来目的に沿って有効に活用している。また、現場では褒める取り組みも進めており引き続き適切に活用していく。

《主な議論》

組合:この間、組合が指摘し続けてきたところである。旅客の乗降のほとんど無い場合でも45秒程度かかり、各駅15秒ずつ遅れるのが実態である。必要な検証とは何をしてきたのか。

会社:朝の状況、お客様の動向を鑑みている。

組合:お客様の状況ではなく基本動作を問題にしている。確認したのか。

会社:確認はしている。

組合:どのような確認方なのか。シミュレーターとか活用して実際にできているのか。

会社:シミュレーターも使用している。必要な時間を確保している。

組合:停車時分とは列車が所定停止位置に停車してから運転を開始するまでの時間である。現行基本動作を車掌・運転士が行うとドアが開いている時間は15秒程度になる。これまでもしつこく実態を訴えてきた。ストップウォッチを使って品質管理しているのか。

会社:遅れを放置している訳ではない。何故なのかも調べている。

組合:遅れている実態を把握しているということだな。確認する。

会社:お客様の動向もあり結果として遅れることもある。。

組合:列車ダイヤは会社の商品である。日常的に遅れているのは不良商品である。品質管理するのは会社の責任である。できないのは怠慢だ。

会社:必要な時間は確保していると認識している。

組合:遅れが発生していると指令から遅れの原因が問われる。定時運行しようとする、現場では、管理者から運情のデータにより車掌では、「停車からドア開までの時間が早い」運転士では、「ドア閉から起動までの時間が早い」と怒られている。社員によっては、確認喚呼をするために早めにドア閉をして「早閉め」とされ事故にされた事象もある。

会社:適切にしている。

組合:会社は、確認させることで責任逃れをしている。ダイヤ改正では停車時分の見直し、若しくは基本動作の見直しをすべきだ。改善されるまで要求していく。

以 上